

★今週の聖句

「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」
マルコによる福音書6章4節

★ねらい

- ① イエス様への驚き、困惑、疑問は大切。
- ② その驚きを自分の中に閉じ込めるか、開放し、神様にゆだねるか。

★説教作成のヒント

- ・聖書日課の前後関係、脈絡をつかむ。

★豆知識

- ・イエス様は神の「独り子」であるが、「一人っ子」ではなかった。弟のヤコブは初代教会で重要な役回りをする。

★説教

イエス様は今、人々の不信仰を見つめています。直前の5章21節以下のところでは、信仰によって救われた人々に注目していたのですが…。人々の不信仰のゆえに、ここではイエス様は、「ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった」のです。それは故郷のナザレであり、そこの人たちです。

イエス様の故郷ナザレは、ガリラヤ地方の片田舎の小さな村です。小さな村ですから、そこに住んでいる人々は、みんなお互いによく知り合っています。イエス様はその村で、大工であった父ヨセフと母マリアのもとで育ちました。そしておよそ三十歳ぐらいで、家を出、村も出て、ガリラヤ中で「神の国は近づいた」と教え、力ある業をされたのです。

ナザレの人々は、イエス様のことを、「この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか」と言いました。これは、自分たちはイエスのことも、その家族もよく知っている、と言うことです。イエス様には、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンという弟たちがいました。また妹たちもいて、おそらくこの時にはみんな結婚していたことでしょう。

「マリアの息子で」という言い方に注目しましょう。一つには、父ヨセフは、その時、既に亡くなっていたからでしょう。しかしそういう場合でも、普通は父親の名前を用いて「誰々の子」と言うはずですが。母マリアの名が出てくるのは、イエス様の出生にまつわる疑惑があったからです。つまりイエス様は、マリアがまだヨセフと正式に結婚していなかった時の子どもで、父親は誰かはっきりしない、ということです。ナザレの村の人々は、イエス様の出生にはそういう噂があることまで知っていたのです。

故郷の人々はイエス様につまずいたのです。イエス様の教えを素直に聞き、受け入れ、信じることができませんでした。イエス様はそういう故郷の人々の様子を見て、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われたのです。この言い回しは当時の諺だったようです。自分のことを幼い頃からよく知っている故郷の人々や親戚、家族の中では、預言者は預言者として敬われない、ということです。私たち自身の体験としても分かると思います。家族や親戚、友人知人といった身近な人には、自分のことがよく知られています。自分の良い点だけでなく、欠点もみんな知られています。「それでもクリスチャンなの？」と言われそうで、それが恐ろしくて、家族や友人だからこそ、教会にもなかなか

誘えません。

しかし、イエス様の場合はそういう話ではありません。ナザレの人々はイエス様の知恵と奇跡を行う力に驚いています。それは、これまで至る所で、イエス様に出会った人々と同じ反応です。その驚きの中で、人々は神様の声を聞き、神様の救いのみ業を見たのです。そして、その中からイエス様に従って行く人たちが生まれたのです。

しかし、ナザレの人々はそうはならなかったのです。イエス様への驚きが信仰のきっかけとはならず、「この人は、このようなことをどこから得たのだろう」と問うのでした。この問い自体は問題ではありません。問題はその問いに続いて彼らが、「この人は大工ではないか、マリアの息子で…」と、イエス様を分析し始めたことです。つまりナザレの人たちは、イエス様について自分たちが知っている事柄の範囲内で、あくまでも一人の人間として、イエス様を見て、分析し理解しようとしたのです。その結果、彼らはイエス様につまずきました。そして、信じることができず、拒んだのです。

イエス様のみ言葉やみ業に驚き、感嘆する、疑問を抱く。そこから、信仰が生まれるか、それともつまずき、不信仰になるか、分かれ道です。イエス様のことを、自分の理解できる範囲内で捉え、分析し、理解しようとするなら、つまずくことでしょう。そうではなくて、そこに人間の力を越えた神様の働きのあることを信じ、願い求めていくなれば、イエス様のことを正しく知る道が開かれていくことでしょう。信仰へと通じる道です。

その信仰はどんなに不完全で、弱々しく、よろよろとした危ういものであっても、イエス様は私たちと常に共に歩んでくださり、その信仰を守り育ててくださいます。そして、5章34節にあったように、「あなたの信仰があなたを救った」と言ってください

★分級への展開

○さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

53番「しゅにしたがいゆくは」

改訂版119番「主に従うことは」

○はなしてみよう

驚いた体験を分かち合い、神様の働きを話し合おう。

○やってみよう

☆不信仰な心は捨てよう

<用意するもの> 新聞紙、ピンポン玉2個(2色)

① どんな時、神様を信じてるって思うか紙に書いてみよう。

(1人1枚でもいいし、大きめの紙にみんなの意見を書いていってもいい)

ex) 教会に来た時、お祈りする時、嬉しい時、こわい時……。

② 今度は、どんな時、神様を信じてないって思うか書いてみよう。

ex) 教会から離れている時、いいことがない時、いじわるな時……。

※子供達の気持ちをうまく引き出してあげてください。

③ 今日の聖書の箇所を読んでみる。ナザレの人たちはどうしてイエス様のことを信じなかったのか話してみる。

④ 2色のピンポン玉の片方を信じる心のボール、片方を信じない心のボールにする。

⑤ 新聞紙の真ん中にピンポン玉の大きさぐらいの穴を開ける。新聞紙の周りをみんなで持ち、信じる心ボールは落とさないで、信じない心ボールだけを落とす。(2人ずつ、または4人ずつやってもいいし、グループ対抗でやっても盛り上がる)

★今週の聖句

「十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。」
マルコによる福音書6:12

★ねらい

- ① 「二人」の意味。
- ② ミシオ・デイ。神がなされる伝道。

★説教作成のヒント

- ・ 神のなされる伝道に招かれ、参与する私たち。何と畏れ多い、光栄なことか。ただ、神様に感謝し、信頼するのみ。そこでもし、自分の力により頼み、自分の能力で何かをしようとするなら、それは伝道ではなく、自己宣伝。

★豆知識

「足の裏の埃を払い落とす」とは「もうあなたがたとは何の関係もない」ということを示すしぐさ。それは、「あなたがたが私たちの言葉を受け入れずに滅びてもそれはあなたがた自身の責任だ」ということ。イエス様によって派遣される弟子たちは、そういう権威ある言葉をたくされているのだ。

★説教

イエス様の十二人の弟子たちは伝道へと派遣されます。7節には、彼らが二人ずつ組にして遣わされたとあります。それは、二人なら、助け合い、励まし合い、支え合うことができるからです。一人では耐えられないような苦しみや困難に直面しても、二人なら力を合わせて乗り越えていくことができるでしょう。信仰を与えられ、イエス様の弟子とされてこの世に遣わされていく私たちは、一人ではなく、教会の仲間と共に生きていくのです。「孤軍奮闘」ではなく、仲間と共に歩み、伝道するのです。

さらに、二人ずつ組になるのは、自分の好き勝手にはできないということでもあります。イエス様の弟子として派遣され、伝道していく上で、私たちは、自分一人の思いではなく、共に歩む仲間たちとよく相談することが大切です。それは、自分たちを派遣されるイエス様のみ心を尋ね求めることであり、イエス様のみ心に従って歩むためです。

8、9節には、派遣される者たちの旅支度について、「旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして『下着は二枚着てはならない』と命じられた」とあります。これは要するに、自分たちの働きを、自分が持っているいろいろな物や財産によって支えようとするな、ということ。「私にはこれがあるから大丈夫」、こんなにあるから安心」、そういう思いは捨てなさいということです。

イエス様の弟子として生きる信仰者の生活は、自分の能力や資質、家柄や学歴、身に付けた技術、そういった自分の財産によって支えられるものではないのです。逆に言えば、「能力も、財産も、技術も何もないから、伝道できない」とは言えないのです。イエス様の弟子として生きていくのに、お金や持ち物や着る物がなくても大丈夫です。誰でも、わが身一つで、今直ぐに、イエス様の弟子、信仰者として生きることはできます。なくてはならぬものは、主イエス・キリストの召しであり、派遣です。

逆に、イエス様が召し、そして、派遣してくだらないなら、どんなに豊かな財産や能力や才能を持っていたとしても、キリスト者、伝道する者として生きていくことはできません。イエス様の召しと派遣をしっかりと確認し続けましょう。

イエス様は、10節で、「どこでも、ある家に入ったら、その土地から旅立つときまで、その家にとどまりなさ

い」と言われます。ここで前提とされているのは、伝道のための旅です。旅先の町では、自分たちを迎え入れてくれる人の家で、「一宿一飯」のお世話になりながら伝道するのです。その場合、ある家に迎え入れられたなら、その町を去るまでは、その家に留まり、同じ町の中で滞在先を転々と変えるな、と言われるのです。

転々とするのは、あちらの家の方が待遇が良い、居心地が良い、ということだからでしょう。それは、イエス様に派遣されていながら、イエス様のことよりも、自分の喜び、楽しみが一番ということなのです。さらには、人の好意や親切をあてにし、甘えているのです。そういう行動をイエス様はお喜びになりません。

ここで、イエス様が言うておられることは、伝道のテクニックやノウハウではないのです。そうではなく、「あなたは何を頼みに生きているのか」ということです。自分が握りしめているものにより頼んでいるのか、それとも、私を召し、派遣されるイエス様に深く信頼を寄せて生きているのか、ということです。これこそ、イエス様からの最も大切な問いです。

洗礼を授けられ、信仰を与えられて生きるとは、イエス様から、「わたしを信頼して生きていきなさい」と招かれているということです。

★分級への展開

○さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

□129番「どんどこどんどこ」

□改訂版106番「どんどこどんどこ」

○はなしてみよう

イエス様の召しと派遣を確認するのは、いつ、どこで？

○やってみよう

☆みことばアイスクリームを作ろう

<用意するもの>

空のミルク缶、空のコーヒー缶(蓋がしっかり閉まるものならお茶缶や海苔缶などでもいい)、新聞紙、ガムテープ

A:牛乳150ml、砂糖40g、バニラエッセンス1,2滴、生クリーム50ml

B:氷、塩(氷100gに対して30g)

- ① コーヒー缶にAの材料を入れ、蓋をしてガムテープでしっかり封をする。
- ② ミルク缶の中にコーヒー缶を入れて、まわりに氷を詰める。
- ③ お塩をたっぷりぐらい入れて、蓋をしてガムテープでしっかり封をする。
- ④ 新聞紙でぐるぐる巻きにし、さらにガムテープでぐるぐる巻いてボールにする。
- ⑤ みんなで輪になり、4つに区切ったみことばを言いながらサッカーをする。「一二人は」キック「出かけて行って」キック「悔い改めさせるために」キック「宣教した」キックを何度も続ける。15分ぐらいで、おいしいアイスクリームが出来上がります。
※お塩が少ないとうまくできません。

★今週の聖句

「すべての人が食べて満腹した」

マルコによる福音書6章42節

★ねらい

- ① 自分の満足、達成感ではなく、神様の働きへの参与。
- ② 神様の伝道のために用いられる弟子たち、私たち。

★説教作成のヒント

モーセは民を(出エジプト16章)、エリシャも百人の預言者を養った(列王上4章)が、ここで主イエスは、飼う者のいない羊の羊飼いとして描かれている。

★豆知識

四つの福音書のすべてが記す奇跡物語がこれ。

★説教

30節に、「使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した」とあります。これは6章7節以下の、イエス様が十二人の弟子たちを宣教のため、また悪霊を追い出し、病人を癒すために派遣されたこととつながっています。

自分たちの体験を喜んで報告した弟子たちに、イエス様は、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言って、人里離れた所へ行かせようとした。それは祈るためです。イエス様ご自身、人里離れた所で、父なる神様と向き合い、語り合う、神様との交わりの時を持たれました。同じことを、今、弟子たちにもさせようとしたのです。イエス様は、弟子たちには今、そういう祈りの時が必要だと判断されたのです。人間は、自分の働きが順調な時ほど、自分の力を過信し、神様を忘れます。ですから、順調な時、うまくいっている時こそ、人々から離れて、働きも中断して、神様と向き合い、祈ることが大切です。

ところが、人里離れた所に行くはずが、そこはすでに、すべての町から一斉に駆けつけて来た群衆で大騒ぎでした。イエス様はその大勢の群衆を見て、「飼い主のいない羊のような有様を深く憐れ」まれました。彼らには、自分たちを養い、守り、導いてくれる飼い主、主人がいないのです。イエス様の深い憐れみ、それはただ「可哀想に思う」というのではなく、特別な思いです。イエス様は、集まっている群衆を深く憐れみ、いろいろと教え始められたのです。

イエス様の話が続く中、弟子たちは次第に心配になってきました。ここは人里離れた場所です。そこに男だけでも五千人も集まっています。まもなく日が暮れます。夕食のことが気掛かりです。そろそろ「お開き」にしないと…。そこで弟子たちはイエス様に、「人々を解散させてください。そうすれば、自分で周りの里や村へ、何か食べる物を買に行きましょう」と提案します。するとイエス様は、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われました。弟子たちは驚き、「私たちが二百デナリオンものパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と言ってしまいました。一デナリオンは当時の労働者の一日分の賃金です。二百人分の賃金がなければ、食べ物を用意することはできないのです。そんなお金が自分たちにないことは、イエス様もよくご存じのはず。するとイエス様は、「パンは幾つあるのか。見て来なさい」と言われました。五つのパンと二匹の魚。それがすべてでした。

「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」とイエス様は言われましたが、初めに話したことごとを思い出してください。弟子たちは素晴らしい働きをしてきました。「こんなことをしたよ。あんなこともできた」と達成感

満々です。そんな弟子たちには、人里離れた所で休み、祈る時が必要でした。しかしそれは果たせず、今また多くの群衆に囲まれてしまいました。そんな弟子たちにイエス様は、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と言われたのです。それは自分たちの力がどれほどのものかを自覚させるためでした。自信満々の弟子たちは群衆を前に、うろたえているのです。五つのパンと二匹の魚では、五千人以上の人々のお腹を満たすことは全くできません。

イエス様は、弟子たちの持っていたパンと魚を手に取りました。そして、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちに渡して配らせます。魚も同じように、です。すると、すべての人が食べて満腹し、さらに十二の籠にいっぱいになるくらい余りが出たのです。

イエス様は弟子たちに、集まっている群衆を組に分けて座らせるようにお命じになり、そしてパンと魚を、弟子たちに配らせました。飼い主のいない羊のような人々に対するイエス様の憐れみ、神様の愛は、弟子たちの手を通して人々に分かち与えられたのでした。

こうして「すべての人が食べて満腹した」のでした。イエス・キリストという、まことの羊飼いのもとで養われる羊の群れは幸いです。

「パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった」とありますが、それは、十二人の弟子たちと対応しています。十二人の弟子たちが、パンと魚とを人々に配り、そしてその残りを十二人が集めたのです。弟子たち一人ひとりは無力です。しかし、イエス様は彼らを神様のご用のために用いてくださいます。

★分級への展開

○さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

□104番 「にひきのさかなと」

□改訂版21番 「2匹の魚と」

○はなしてみよう

私たちのパンと魚を分配する働き、その残りを集める働きとは何か。

○やってみよう

☆うちわを作ろう

<用意するもの> 厚紙をまるく切ったもの(1人2枚)、わりばし、セロテープ、のり

①1枚に2ひきの魚と5つのパンの絵を描く。

②もう1枚には、小さい魚とパンをいっぱいいっぱいたくさん描く。

③1枚にセロテープでわりばしを貼り付ける。

④もう1枚をのりで張り合わせるとうちわの完成。

「2ひきの魚と5つのパンが、あら不思議！」

☆ポップコーンを作ろう

<用意するもの> ポップコーンの種、紙コップ、お鍋、サラダ油

①ポップコーンの種を人数分の紙コップに分ける

「そのままでは、食べられないよね」

②鍋にそれぞれの持っている種を入れてもらい、ポップコーンを作る。

できあがったポップコーンを「神様の恵みを受けるとあら不思議！こんなに増えたよ～」と言って紙コップに分けていただきます。

★今週の聖句

「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」

マルコによる福音書6章50節

★ねらい

- ① 舟は教会。
- ② 逆風の中、漕ぎ悩む時も、主と共に。主なる神様の支配がある。

★説教作成のヒント

- ・4章の「突風を静める」記事と照らし合わせつつ。

★豆知識

- ・アメリカのデンマーク移民の教会には、模型の舟が作り上げられていました。

★説教

教会はしばしば舟に譬えられます。礼拝堂の天井から模型の舟が作り上げられている、そんな教会、礼拝堂もあります。教会は舟で、そこに集まって礼拝する人たちは、その舟に乗って航海する人たちという考え方です。今日の福音は、イエス様の弟子たちが舟に乗ってガリラヤの湖を渡っていくことを語っています。この弟子たちの舟旅は、私たちの教会の歩み、信仰生活と重なり合うのです。

45節に「イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ」とあります。イエス様は弟子たちを無理やり舟に乗せ、ガリラヤ湖へと漕ぎ出させたのです。私たちの教会生活にも、イエス様に強いられてという一面があるのです。そうでないと本当にイエス様の救いにあずかって生きることができないからです。信仰者は、キリストの体である教会の一員となって、頭であるキリストにつながり、同じキリスト体の部分である他の兄弟姉妹との交わりに生きるよう定められており、そうしてこそ、神様の恵みに養われ、成長するのです。私たちが教会につながり、礼拝する仲間たちと共に生きていくのは、自分の意志や考えだけによるのではなく、その根底には、神様のお心、ご計画があります。そういう意味でイエス様に強いられて、舟に乗っているのです。

さて弟子たちの舟と同じように、私たちの舟、教会も、時に沈みそうになり、そうでなくても、逆風に見舞われ、いくら漕いでも少しも前に進まず、むしろ後退してしまうことがあります。そんな中で疲れ、意気阻喪することも起ります。しかも、イエス様は舟に乗っておられないのです。どうしてイエス様はこの舟に乗っておられないのでしょうか。

もちろん、イエス様は本当はちゃんと乗っておられます。目には見えないけれども聖霊のお働きによって、イエス様はいつも私たちと共にいてくださいます。ここで、イエス様が舟に乗り込んでおられないのは、弟子たちを突き放し、自分たちの力で湖を渡らせるためではありません。イエス様は湖を渡っていく彼らのために、父なる神様に執り成し、その歩みを支えておられます。それは目に見える仕方でその舟に乗り込んでいる以上の恵みなのです。その恵みは、今日の私たちの教会にも与えられています。今、主イエス・キリストは、父なる神の右の座に座しておられます。天で、私たちのために執り成し、守り支えてくださっています。

48節に、「逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て」とあります。イエス様は、彼らが漕ぎ悩んでいることをしっかりと見ておられます。同じように、イエス様は私たちの教会の歩みをいつも見ていてくださいます。そして、イエス様は、夜が明けるころ、湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれるのです。

それは、必要があれば、どんな妨げや隔たりがあろうとも、それを乗り越えて、私たちのところに来てくださるということです。逆風に漕ぎ悩んでいる私たちのもとに、イエス様は聖霊の働きによって来てくださり、共にいてくださいます。

ところが、弟子たちは、イエス様が知らぬ顔で、そばを通り過ぎて行くように感じたのです。さらにはイエス様のことを幽霊だと思っておびえ、大声で叫んでしまうのでした。イエス様が来てくださり、助けてくださるというのに、その事態を正しく受け止めることができず、むしろ恐れて脅えて、慌てふためいているのです。それは私たちも同じかもしれません。

イエス様はそのように恐れ脅えている弟子たちに、「安心なさい。わたしだ。恐れることはない」と語りかけられました。この「わたしだ」という言葉は、ただ「幽霊ではない。私だ」と言っているだけではありません。「わたしはある」という言葉で、『出エジプト記』3章で、主なる神様がモーセにご自分のお名前をお示しになった、その時の言葉と同じです。「わたしはある」とは、主なる神様は、人間がどう言おうと、どう考えようと、神として確かに存在し、生きて働いておられるということです。イエス様はここで、そういう宣言をされたのです。

逆風の中で漕ぎ悩み、うろたえ、脅えている弟子たちですが、そこにまことの神様が、生きて働き、共にいてくださることを、イエス様は宣言されたのです。そして、舟に乗り込んできてくださいました。すると、「風は静まった」のです。

★分級への展開

○さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

35番 「しゅわれをあいす」

改訂版124番 「愛の主イエスは」

○はなしてみよう

逆風のため、漕ぎ悩む体験を。

○やってみよう

☆信じて歩こう

<用意するもの> 目隠し用のタオルなど2人に1枚(もしくは持ってきてもらう)

①2人ペアになって、1人が目隠しをする。

②もう1人が、声だけで誘導して教会の中や庭を歩く。

③次に、しっかり手をつないで同じように歩いてみる。

④今度は、目隠しする人を交代して同じように、声のみ、手をつないで歩いてみる。

⑤声だけの時と手をしっかりつないでいた時とどうだったか話してみる。

「イエス様は、みんなの手をしっかりとつないで歩いてくれます」

最後にみんなで輪になって隣の人としっかり手をつないでお祈りしましょう。

★今週の聖句

「人の中から出てくるものが、人を汚すのである」
マルコによる福音書7章15節

★ねらい

- ① 人の言い伝えと神の教え。
- ② 罪とは、人間の行為のあれこれではなく、存在そのものの問題性。神様との関係性

★説教作成のヒント

人間、世界中の人々の称賛を浴びるような良い働きをしても、響きを買うだけの極悪非道のことをしても、そこに共通しているのは、自己中心性。

★豆知識

イスラエルの民にとって、食べて良い生きもの(清いもの)と食べてはいけない生きもの(清くないもの)はな—んだ? (『レビ記』11章、『申命記』14章参照)

★説教

イエス様は、15節で「外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが、人を汚すのである」と言われました。謎めいた言葉です。弟子たちも意味がわからなかったのか、尋ねています。イエス様の答は18節以下です。

「外から人の体に入るもの」、それは食べ物です。食べ物は外から人の腹の中に入り、そして消化されて外へ出ていきます。それは、外から腹の中に入るものは、出ていく時はみんな同じだということです。清いと言われているものも、汚れていると言われているものも、体から出ていく時、区別はできません。ですから、食べ物のせいで人が汚れるようなことはないと言うことです。食べ物は一つの例、たとえば、汚れは外から入って来るものではない、とイエス様は断言しておられるのです。それなら、人の汚れはどこから来るのでしょうか。

「人の中から出て来るものが、人を汚す」のです。その説明が20節以下です。「人から出て来るものこそ、人を汚す。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである」と。

「人から出て来るものこそ人を汚す」というのは、体の中から出ていく排泄物のことではありません。「人間の心から湧き出る悪い思い」です。これこそが人を汚し、汚れた者とします。その汚れとして、「みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別」などがあげられています。これらの悪い思いと行いは、外から入って来るのではなくて、私たちの心の中から生まれて来るということです。

バイキンのことを考えるとよく分かるでしょう。ファリサイ派の人や律法学者たちは、バイキンから身を守るように汚れから身を守ろうとしていたのです。食事の前に手を洗うという言い伝えが生まれたのはまさにそういう感覚でしょう。私たちが、衛生的な観点から、手を洗い、バイキンを流し落としてから、食事をするように、彼らは、同じ感覚で汚れを洗い落とすことによって清い者となろうとしていたのです。ところがイエス様は、汚れは洗い流すことができるバイキンのようなものではない、あなたがたの心そのものが汚れの源なのだ、と言うのです。

これはファリサイ派の人や律法学者たちに対する批判に留まりません。私たちが、良い人と悪い人を勝手に区別して、自分をますます清めたつもり、自分は良い人になっているつもりで、「悪い人」を見下したり、批判ばかりする、そういう私たちに対して、イエス様は、あなたがた自身の中に汚れがある、あなたの中にバイキンの巣がある、そこから悪い思いや行いが次々に外に出て来るのだと言っているのです。ですから、外側をいくら一生懸命清めても、それで清い者となるのではないということです。それではどうすればよいのでしょうか。

汚れは、内側、心の中から生じるのだから、自分の外側ではなくて、心の中をこそ洗い清めなさいと言うことでしょうか。そうではありません。私たちが洗い清めることができるのはせいぜい外側だけです。心の中を自分で洗い清めることはできないのです。イエス様の教えは、「手を洗うよりも心を清くしなさい」というものではありません。

イエス様は、伝道活動の最初に、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と宣言されました。「神の国は近づいた」、つまり神様の支配が今や実現し、あなたがたを捉えようとしている、と言うのがイエス様の教えの根本、基本です。そして、この神様の支配を受け入れてこそ、私たちの心を支配している汚れ、罪からの解放、救いがもたらされるのです。その解放、救いは、私たちが自分の心を洗い清めることによってではなくて、神様が私たちを支配してくださることによって、実現し、与えられるものなのです。

その神様の支配が、今や主イエス・キリストによって始まった、と言うのが「神の国は近づいた」ということです。私の、汚れからの清め、罪からの解放は、私がすることではなく、主イエス・キリストが、つまり、私の中からではなく、私の外から来るイエス・キリストがしてくださることなのです。私は何もせず、すべてをお任せすることが最善なのです。

★分級への展開

○さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

3番 「きよいあさあけて」

改訂版97番 「美しい朝も」

○はなしてみよう

よいことをしても、悪いことをしても、また、どう転んでも、自己追求、自己主張をやめない人間について。

○やってみよう

☆お友達のことをよく知ろう

①2人ペアになって、自己紹介をします。そして、いろんなことを質問しあったりして、相手のことよく知ってください。好きなこと、苦手なこと、はまっていること、好きな食べ物、習い事、将来の夢、何でもいいです。できるだけ、相手の良いところを見つけてあげてください。

②次に相手のことをみんなに紹介します。「いつも教会学校で遊んでいるお友達の新しい発見はありましたか？学校などで、人のうわさや見た目だけであまりよく知らないのに人の事を悪く言ったことはないですか？あまり好きではない友達もいるかもしれないけど、どうすれば仲良くできるかな？考えてみましょう。」